

開講年度	令和6年度	開講課程	博士前期課程
授業名	器官病態外科学特別研究		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～2年次
必修・選択の別	選択	単位	12単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(脳神経外科学) 脳腫瘍、脳卒中 (整形外科学) 運動器加齢変性疾患、疫学研究、データベース (脊椎脊髄病学) 脊椎脊髄手術 (Spine and spinal cord surgery), 低侵襲脊椎外科手術 (minimally invasive spine surgery), 骨粗鬆症性椎体骨折 (osteoporotic vertebral fracture) (視覚病態眼科学) 眼組織創傷治癒 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 聴覚、平衡覚、嗅覚・味覚、嚥下機能、頭頸部腫瘍、感染症		
担当教員 (下線: 科目責任者)	医	(脳神経外科学) 教授 中尾直之、准教授 深井順也、講師 北山真理、講師 八子理恵、講師 中井康雄、講師 佐々木貴浩 (整形外科学) 教授 山田 宏、准教授 岩崎 博、准教授 筒井俊二、准教授 高見正成 (脊椎脊髄病学) 教授 中川幸洋 (視覚病態眼科学) 教授 雑賀司珠也、教授 岡田由香、准教授 住岡孝吉、准教授 小門正英、准教授 田中才一、准教授 白井久美 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 教授 保富宗城、准教授 玉川俊次、准教授 河野正充、講師 大谷真喜子	
	薬		
授業の概要	脳神経外科学、整形外科学、脊椎脊髄病学、視覚病態眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の各分野において修士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究課題の設定から研究計画の立案、調査・分析などの方法を理解するとともに、計画に沿ってデータの収集・解析や実験を遂行する。また、日々の臨床活動において抱える地域の保健医療課題等の解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献できる研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。		
到達目標	(脳神経外科学) 脳神経外科学の主要分野である脳腫瘍や脳卒中における研究計画の立案方法を修得する。計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行することができる。 (整形外科学) 疫学研究の手法、データベースの作成・処理や活用方法について修得する。 (脊椎脊髄病学) 脊椎脊髄病に関する診断、治療計画に基づく低侵襲外科的治療の適切な選択、現在の手術手技の評価と新たな手技の開発に関する検討を行うことができる。 (視覚病態眼科学) 研究領域の背景の理解のもとに研究成果を解析し、適切な考察の上で、学術論文を発表する。 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 上気道における感染免疫・感覚免疫・腫瘍免疫に関する高度な研究能力を身につける。		

授業計画	<p>(脳神経外科学) 脳腫瘍または脳血管障害の病態解明や治療法に関する研究課題の設定から研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行できるように指導を行う。(中尾直之/西林宏起/深井順也/北山真理/八子理恵/中井康雄/佐々木貴浩)</p> <p>(整形外科) 運動器加齢変性疾患疫学調査データベースの解析による運動器加齢変性疾患の病態解明に関する研究を行う。 ・運動器加齢変性疾患の疫学研究の課題設定、計画の立案(山田 宏) ・疫学研究の手法(岩崎 博) ・疫学研究データベースの作成と解析(筒井俊二) ・疫学研究の臨床応用(高見正成) (山田 宏/岩崎 博/筒井俊二/高見正成)</p> <p>(脊椎脊髄病学) 脊椎脊髄疾患に対する新たな低侵襲治療についてその臨床的意義の検証のため、画像および臨床症状の評価を行うための研究指導、論文作成の指導を行う。(中川幸洋)</p> <p>(視覚病態眼科学) 修士論文作成の指導を行う。研究課題の設定・研究計画の立案とともに、計画に沿ってデータの収集・解析や実験を遂行する。眼組織の生体反応に関して、日々の臨床活動や地域の保健医療での課題等の解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献することの重要性を説く。(雑賀司珠也/岡田由香/住岡孝吉/小門正英/田中オー/白井久美/高田幸尚)</p> <p>(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 1. 聴覚(河野正充)、平衡覚(大谷真喜子)、嗅覚・味覚(保富宗城) 人工内耳による聴覚機能の改善、めまい及びスポーツ医学における平衡覚の解析、嗅覚障害の診断法と嗅覚トレーニングに関する研究指導及び論文作成指導を行う。 2. 頭頸部癌・甲状腺癌(玉川俊次) 頭頸部癌・甲状腺癌の治療予後についての研究指導及び論文作成指導を行う。 3. 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症(保富宗城) 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症の難治化機序と抗菌薬適正使用についての研究指導及び論文作成指導を行う。 (保富宗城/玉川俊次/河野正充/大谷真喜子)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100%(研究課題の設定内容、研究の遂行状況)によりS(90点以上)、A(80~89点)、B(70~79点)、C(60~69点)、D(59点以下)の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー(学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。

教科書・参考書	<p>(脳神経外科学) 特に指定しない。</p> <p>(整形外科学) 特に指定しない。</p> <p>(脊椎脊髄病学)</p> <p>【教科書】「標準整形外科学 第14版」 著者：井樋栄二 出版社：医学書院</p> <p>(視覚病態眼科学) 特に指定しない。</p> <p>(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)</p> <p>【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> <p>【参考書】「新耳鼻咽喉科学」著者：切替一郎 監修・編集：野村恭也、加我君孝、出版社：南山堂 英文誌「Laryngoscope」 出版社：Wiley Online Library</p>
---------	--